

議会運営委員会行政視察報告書

1 視察期間

令和6年7月29日から7月30日まで 2日間

2 視察都市

(1) 長野県 松本市

(2) 長野県 上田市

3 参加者

芥川栄人委員長、小栗宏之副委員長、鈴木弥栄子委員、平田直巳委員、八木義弘委員
秋山勝則委員、江塚 学委員、鳥居節夫委員、根津康広委員
鈴木喜文議長

随員： 富田和孝事務局長、野末茂之主査

4 視察事項

議会活性化の取組について

・長野県 松本市

- (1) ICTを活用した議会運営について
- (2) 議場放送システムの現状と課題について
- (3) ひとり会派（無所属）の取決めについて
- (4) ステップアップ市民会議の取組や活性化事業の決定方法等について
- (5) その他の議会運営に係る特色ある取組について

・長野県 上田市

- (1) ICTを活用した議会運営について
- (2) 議場放送システムの現状と課題について
- (3) ひとり会派（無所属）の取決めについて
- (4) 政策討論会について
- (5) その他の議会運営に係る特色ある取組について

5 考察

次のとおり

I 松本市 人口：234,664人・面積978.47㎡（令和6年7月1日現在）

1 議会活性化の取組について

(1) 概要

長野県の中央西部に位置する県内第2の都市である。市域には上高地や乗鞍高原、穂高岳、槍ヶ岳も含まれる。明治期から製糸業で栄え、食品、機械、電機などの工業都市として発展してきた。農業も盛んで、リンゴ、スイカ、ブドウなどが国内上位の産出額である。松本城や北アルプス、美ヶ原高原、温泉地などの観光資源も豊富である。

(2) 考察

ICTを活用した議会運営について、個人所有のパソコンやタブレットは議場等への持込みができ、会議中のネット検索も可能である。また、スケジュールの共有などにも活用され、事務局の負担軽減につながっている。年2回程度の端末操作等の研修を通じ習熟を図り、非常時等におけるオンライン会議が円滑にできるよう訓練を実施している。導入して終わりではなく、道具として活用をし、審議や審査機能の向上につなげている。

市議会会議規則にのっとり、「議会基本条例施策推進組織」として「政策部会・広報部会・交流部会」を設けて、全議員がいずれかに所属して活動している。各部会は年度ごとに所掌事項に関する事業計画を策定し、毎定例会ごとに議会運営委員会へ報告し、年度末に事業評価を行っている。これらの取組過程はインターネットで公開し、見える化を図っている。

また、政策提案や政策提言を推進する仕組みがある。常任委員会ごとにテーマを設け、その研究結果を全議員参加の「松本市議会政策討論会」で議論をし、議会として市執行部に対して政策提言書を提出、その提案・提言に対する報告を市執行部から受けるというサイクルを実行している。上記の「議会基本条例施策推進組織」と重複している感はあるが、議員の質の向上や開かれた議会を意識した対応として評価できると感じる。

「ステップアップ市民会議」は、市民の市議会への参加と開かれた議会の実現を図ることを目的にしたもので、同市民会議より若者との交流や若者・子ども向けの「議会だより」の発行などの提言があり、「まつもと市議会こどもだより」が創刊された。しかし、会議の進め方等、様々な課題が増え、現在は開催を見送っている。市民との目的等の共有が望ましいと感じた。また、高校生との交流事業では、高校生による請願という事案もあり一定の評価を得ている。

1人会派については、所属議員が3人以上で、1つの会派（交渉団体）とみなすという仕組みになっており、情報の共有や意見の吸い上げといった部分では、少数意見の尊重にも配慮されているように感じた。

磐田市議会の仕組みと本質的な部分で類似する取組が多いが、新たな気付きも多く、常に改善や進化を意識して議会の活性化を進めていると感じた。

Ⅱ 上田市 人口：151,899人・面積552.04㎡（令和6年7月1日現在）

1 議会活性化の取組について

(1) 概要

長野県の中央北東寄りに位置し、北を菅平、南を美ヶ原高原に囲まれる。真田氏が築いた城下町で、古くから京都と東北を結ぶ東山道の要衝にある。明治期からは蚕都として栄え、その技術が機械金属工業に受け継がれ、現在は精密電気機器・生産用機器が主体となっている。観光資源として菅平高原スキー場や別所温泉などがある。

(2) 考察

ICTを活用した議会運営としては、「上田市議会タブレット端末運用基準」を設け、タブレットの適正な管理・使用について規定している。また上田市情報セキュリティポリシーを参考にし、個人所有のPC等情報機器の本会議及び委員会への持込みは、申し合わせに従い、届出すれば許可をしている。また、ICT化に関心の高い議員がタブレット導入検討委員会に所属し、フォローアップの研修会を実施し、端末操作技術の定着に努めている。磐田市議会として、情報機器の議場等への持込みについて、どこまでの必要性があるのかなどは議論の必要があると考えられる。

見学した新たな議場においては、磐田市議会とは異なり、執行部席や議員席にマイクが設置されていなかった。理由として、質疑については、会派内で各委員会に所属している議員から委員会での議論等（質疑・委員間討議等）内容についての情報共有が徹底されていて、本会議場での質疑の機会自体が少ないので設置に至らなかったとのことであった。

1人会派については、「会派は所属議員3人以上を有する団体」という原則がある。本年度当初には会派に属さない議員1名が存在したが、辞職したため、現在は、全ての議員が会派に属しており、該当する議員がない。再びそのような状況が生じたときには、適宜対応していく方針とのことであった。

上田市も松本市と同様に、議会基本条例に基づき「上田市議会政策検討会実施要綱」を設けて「政策討論会」を実施する仕組みが作られている。政策討論会は議員全員で構成され、全体にかかわる議題や所管が2つの委員会にまたがる事項等を扱い、議員懇談会で実施されている。

磐田市議会と本質的な部分で類似する取組が多いが、常に改善や進化を

意識して、議会の活性化を進めていると感じた。

また、目指すべき姿・目的が明確でないと単純に組織や役割ばかり増えてしまい混乱しがちなので、そのようなことがないように、磐田市議会として議会活性化の議論を深める必要があると感じた。